

附属図書館の Elaboration

前川ゼミ C班

内田 彩結
黒田 蒼士
計良田 碧
田口 来渡

図書館とは？

- ・本を読むだけでなく、人と交流を深められる場所
- ・本を好きになるきっかけを作れる場所
- ・気軽に立ち寄れる場所

附属図書館の現状と課題

- ・「本を読む・借りるだけの場所」というイメージの定着
- ・喋りにくい空間
- ・厳かな雰囲気



◎閉鎖的な空間になっている

- ・暗い雰囲気
- ・音を立てづらい
- ・入り口があまり目立たない

具体案

◎図書館内に「カフェ」を併設する

- ・場所は2階の自習室を利用
- ・本の持ち寄り可
- ・(授業等で)使いやすそうな本を2階へ
- ・専門性の高い本は1階に置いておく

問題点

- ・ 静かにしたい人の邪魔になる
→1階と2階で使い分ける

- ・ 本が汚れる可能性がある
→飲み物には蓋を付け、食べ物は本が汚れないような
食べやすい物を提供

カフェ併設の目的

①話し合いの場を設けるため

図書館は静かで喋りづらい雰囲気というイメージを変える

②利用者を増加するため

- 本を読む以外の目的を作ることで利用者の目的の幅を広げることができる

なぜ「カフェ」なのか

・利用目的が本だけではなくなる

→目的は別であっても、そこから本を手にする
きっかけを作れるのではないか

・「人」と「本」をかかわりやすいものにできる

→「本」とのかかわりが薄くなっている人々にも手軽に
本とかかわることのできる手段になるのではないか

まとめ

現在の附属図書館は閉鎖的な空間



カフェを併設することで開放的な空間に
唯一性を利用して持続的に利用される空間を
作り、本だけではなく人との交流の場に